

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社DBJ総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	◎	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・この時期から年末に向けて団体宴会、少人数の会食や飲み会の予約が増えてきている。
	◎	旅行代理店（経営者）	・例年よりも受注見込みが多い。
(北関東)	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	・8～9月と雨ばかりで、日本各地で災害が発生しているため、旅行のマインドが抑えられた月であった。久々の曇りや小雨の日は売上が良かったことから、10月以降、天候が安定すれば観光需要も戻ってくると考えて、2～3か月後の景気はやや良くなるとした。
	○	コンビニ（エリア担当）	・今後も値上げの影響が続く。
	○	コンビニ（エリア担当）	・今後は秋のレジャー、行楽シーズンに加え、年末年始の帰省客増加も見込まれるため、来客数の回復による売上増加が期待される。
	○	自動車備品販売店（経営者）	・余り良くないところで長く足踏み状態が続いている。ただし、そろそろ必要に迫られて、購買意欲も出てくると期待している。
	○	一般レストラン（経営者）	・秋の行楽シーズンで人出があるため、例年11月は忙しくなる。
	○	都市型ホテル（経営者）	・インバウンドが前年比で倍増している。
	○	都市型ホテル（支配人）	・年末に向けて、料飲部門の予約状況を見ても、やや良くなると判断している。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・前年と比べて、宿泊は団体予約が若干多い。宴会も大口利用が前年よりも多く受注できて良い傾向である。懸念としては、直近の小宴会場利用の伸びが鈍化していることと、年末に向け食材原価の更なる上昇が見込まれるため、値上げに踏み切る商材もあることである。社会全体の景況感次第だが、消費者に受け入れられるか不安である。
	○	タクシー（経営者）	・全体的に動きが良くなっているため、この先も良くなる。
	○	ゴルフ場（従業員）	・エルニーニョ現象が続き、今年の冬は全国的に暖冬の予測が出ている。予約は前年並みに推移しているが、今後の予約に期待したい。
	□	商店街（代表者）	・長雨による影響が大きく、更に追い打ちを掛けるように取扱商品が値上がりしているため、客は悲鳴をあげている。
	□	一般小売店〔精肉〕（経営者）	・3か月先、暮れの商戦でも、生活必需品の値上がりは続く見込みから、景気の上向きは見込めない。
	□	百貨店（店長）	・富裕層の売上は堅調に推移する一方、中間層の売上は前年を下回る状況が続いている。来客数も前年割れが継続している。今後も外部要因は変わらないことが想定されるため、2～3か月先の景気については現在と大きく変わらない。
	□	スーパー（総務担当）	・景気が良くなる見込みがない。長雨で野菜も高騰しており、客の買い控えは続くとみている。
	□	スーパー（商品部担当）	・物価高の影響は続きそうで苦戦が強いられる。価格訴求商品のみ動きが良いものの、その他はシビアな買物をしている。
	□	衣料品専門店（経営者）	・好転する材料が見受けられない。
	□	家電量販店（営業担当）	・エアコン販売は前年比105%で推移しており、今後の値上げに対する取組により前倒しで確保できている。映像関連は前年比95%、白物家電は同92%と苦戦している。資材関連は大幅な値上げにより、仕入れに大きく影響している。
	□	乗用車販売店（経営者）	・当地域の自動車メーカーの生産状況に変化はない。
	□	住関連専門店（仕入担当）	・天候の予測も難しく、不確定要素が多い。来春予定されている食料品の消費税減税のような大きな変化がないと変わりようがない。
	□	その他専門店（総務担当）	・見積依頼が少ない状況は変わらない。
	□	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・農作物の不作、高騰は仕入れに大きく響き、また、酒税法改正の影響も一定程度あるとみている。年末期に向かい、少しでも活性化することに期待している。

□	一般レストラン（経営者）	・年末に向けて期待したいが、現状のままとみている。
□	その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・最低賃金の見直しが今年も10月に実施されたが、労働集約型の産業に属する給食事業にとっては、人手不足や採用難が業務運営の重しとなっている。人材の採用や定着の確保が一段と重みを増しており、労働条件だけではない働きがいの確保が重要なテーマとなっている。
□	旅行代理店（所長）	・月が変われば天候も安定していくと考えるが、長雨や台風による天候不順で、紅葉の色づき具合も懸念され、来訪者数の減少につながる心配である。
□	旅行代理店（従業員）	・海外情勢が余り好転しない見込みである。
□	旅行代理店（営業担当）	・これから紅葉シーズンを迎えるが、これまでの流れを考えると増加は考えにくい。
□	タクシー運転手	・今後もこのような客離れが続く。
□	通信会社（社員）	・今後2～3か月は、値上がりによる買い控えも懸念されるため、景気は現状と大きく変わらないと考えている。
□	通信会社（営業担当）	・円安で売上を伸ばしている。一部企業を除き、多くの消費者の実質賃金が低下している状況では、景気は変わらない。
□	通信会社（総務担当）	・人気機種の新商品需要は限定的で、トータルの販売数を大きく上昇させる力にはならない。
□	テーマパーク（職員）	・物価高騰によるレジャー費の劣後傾向や、度重なる台風の接近による外出控えなど不確定要素が多く、来園者数が増加するとは考えられない。
□	美容室（経営者）	・食品ほか日用品の値上げが家計を圧迫し始めている。引き続き重点支援地方交付金を活用して発行された商品券を利用するフリー客が期待できる。
□	その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・建築コストが高止まりしており、客の予算と見積金額の折り合いがなかなか付かない。今後も同様のケースが続くとみている。
▲	一般小売店〔青果〕（店長）	・長雨で、秋から年末にかけての野菜の作付け、種まきができない状態で、これ以上遅れると年内出荷は難しいという話も出ている。今後は野菜もかなり価格高騰するのではないかとみている。
▲	スーパー（経営企画）	・継続的な物価上昇に対し、収入に変化がないため、やや悪くなる。
▲	コンビニ（店長）	・9月中の悪天候の割には来客数は結構あった。世帯人数の少ない年配客が多く、雨のなか、自宅から程近い当店で買物をする機会が多かったようである。今月と比べると2～3か月後はマイナスになる。
▲	家電量販店（店員）	・単価が下がっているため、やや悪くなる。単価が上がらないことには景気は上向かない。
▲	家電量販店（企画担当）	・前年の10月以降は、パソコン特需の最盛期であり、反動減の影響が一層大きくなるとみている。
▲	乗用車販売店（従業員）	・市場の需要停滞、車両価格の高騰に金利上昇が重なり、買い控えや選択肢の見直しが進む。
▲	乗用車販売店（営業担当）	・金利の上昇や車両価格の値上がりなど買い控えになる要素があるため、しばらくは現状が続くのではないと思う。
▲	観光型ホテル（経営者）	・不透明な経済及び世界情勢のなかで、価格及びし好の2極化が進み、特に、国内旅行の旅行需要は下降すると推察される。
▲	通信会社（局長）	・日本銀行の金利政策が発表され、一部の投資家などに関しては円高や株価の上昇で、恩恵がある。しかし、多くの一般消費者は、住宅ローンを始めとした各種ローン金利の上昇見込みから、支払利息等が増えることへの懸念により、買い控えや節約傾向になっていく。これからは2極化が進む。
▲	ゴルフ練習場（経営者）	・物価の上昇に賃金が追い付かない。
×	一般小売店〔家電〕（経営者）	・地方では生活に余裕のない客がかなり多く、高い買物はなかなかしづらい状況になっている。一般消費者の税負担が大きいと、商売をしていて切に感じている。
×	通信会社（経営者）	・物価の上昇が止まらない現状では、先行き不安から消費者の購買意欲が全くないといえるくらいである。食費を抑えているようでは、他のものにまでお金は回らない。地方は人口減少、少子高齢化、貧困化の三重苦である。景気が良くなるはずがない。

	×	住宅販売会社（経営者）	・物価と金利上昇による景気の悪化が予想され、原価割れの業者が出てきている。廃業等の業者も増えており、悪化に向かっている。
企業 動向 関連 (北関東)	◎	*	*
	○	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・例年10月から年末にかけては受注量が集中するため、やや良くなる。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	・設備投資関連の動きが売上増加につながるとともに、中東情勢により生産が落ち込んでいた自動車関連の仕事も秋から年末に向けて増産計画があり、確実に上向く見込みである。
	○	経営コンサルタント	・諸物価の上昇や金利上昇、為替の大きな変動の下でも、消費行動は底堅く落ち着き、企業の生産活動も同様に堅調な状態が続くとみている。
	□	食料品製造業（経営者）	・米を取り巻く環境は、過去に例を見ないほど最悪の状況に陥っている。新米価格の暴落により生産者の生産意欲は落ち込み、廃業が増加している。取扱業者のなかにも、高値で購入した古米の在庫を大量に抱え、事業の存続自体が危うくなっているという話も聞こえている。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	・客は必要な物しか買わない。
	□	窯業・土石製品製造業（総務担当）	・大きな変化はないと考えている。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・取引先からの情報や受注量から判断して、変わらない。
	□	輸送用機械器具製造業（経営者）	・今後2～3か月先のことは全く分からないが、今よりも悪くはならず、やや良くなるかわからないくらいで推移するとみている。
	□	その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・物価高の状況などもまだ続いているため、変わらない。
	□	輸送業（営業担当）	・季節物の初回配送が始まり、特に暖房、電気ヒーター、電気カーペット、エアコン、石油ヒーターや冬物寝具などは前年並みの物量を確保する予定であるが、ドライバー不足で人件費も上がり、燃料コストの高止まりもあるため、全体的に利益は薄くなりそうである。
	□	社会保険労務士	・坪単価が上がりすぎて今後の新規宅地開発は様子見だと話す不動産事業者が増えてきている。
	▲	化学工業（管理担当）	・一部製品は需要が縮小しており、代替品へ変更可能な物は替えられている。
	▲	金属製品製造業（経営者）	・取引先からの受注予測より、先行きはやや悪くなる。
	▲	一般機械器具製造業（経営者）	・金利上昇が設備投資に悪影響を及ぼすとみている。
	▲	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・主要取引先の生産は計画どおりに進んでいるものの、生産は減産傾向にある。このところの災害級の天候や、中東情勢の影響などの不安感から、新車が売れていない。先行き不透明である。
	▲	建設業（総務担当）	・測量業務はとにかく業務量が足りていない。この時期にこれだけなければ、数か月後は不安しかない。
	▲	金融業（営業担当）	・価格転嫁しても、すぐに仕入原価が上がるため、収益性の改善が進まない。
	▲	不動産業（管理担当）	・経費を削減しても資材の値上げ傾向は続く見込みである。取引先も物価上昇の影響を受けているため、受注金額についてはシビアである。空きテナントの入居もなく、拠点整理が始まっていることから、賃貸面積や物件数が減る見通しのため、売上は減少する。
雇用 関連 (北関東)	×	—	—
	◎	—	—
	○	人材派遣会社（管理担当）	・スマートフォンの新商品発売により、下取りしたスマートフォンの検品業務が増え、派遣社員が増員されるため、やや良くなる。
	□	人材派遣会社（経営者）	・10月から電気料金等の値上げも予定されており、金利の上昇による負担も重くなってくる。製造や加工関係、建設業関係でも電気はどうしても必要だが、材料の調達や全体的な出し渋りもあり、住宅の増改築などはやや厳しさが増している。全般的に財布のひもは少し締められている。

	☐	人材派遣会社（社員）	・給与額について、企業側と求職者側の要求の乖離が大きくなっており、一部の特定のスキルや経験を持った人材以外は厳しい状況が続いている。
	☐	人材派遣会社（社員）	・当地域の観光客数は変わらず順調に推移するかと考えるが、物価高と人件費上昇からどの企業も契約相手との値上げ交渉をしている。最低賃金引上げに付随してスタッフの賃上げもあるため、厳しい状況は変わらない。
	☐	職業安定所（職員）	・新規求人数は前年同月と横ばいで推移している。
	☐	学校〔専門学校〕（副校長）	・今後も求人状況の変化や経済への影響はみられない。
	▲	*	*
	×	*	*